

●題名

2016年7月24日日曜 湯檜曾川袈裟丸沢(右俣)

●参加者

松村(リーダー、記録)、落合、飯野、平川

●記録

グレードだけ見て易しい沢だと思っていたが、実際に遡行してみると、つるつとした岩が濡れており、心理的に手強い沢だった。

非常に良い渓相で、短いながらも滝が連続して楽しめた。天気も良かった。

6時前に朝日岳登山口を出発する。湯檜曾川の魚止め滝は過去に登ったことがあるので、今回は巻いた。河原に降りると、すぐに左から白樺沢・袈裟丸沢が流れ込んでくる。解放感があって気持ち良い。



松村が小滝を巻く際にスリップする。乾いたスラブの上に砂利が乗っていて、一度滑りだすと止まらなかった。幸い落ち口手前で止まったが、前々回に遡行した鶏冠谷でも滑った経験があり、この靴(フェルト)を使いこなせていない気がする。松村は2足のフェルト靴(それぞれ別メーカー)を交互に使っているが、他の3人はいつも同じ靴(ラバー)を使っている。靴を頻繁に変えるのは考えものだと思った。ともあれ、このスリップで松村はテンションが下がる。

白樺沢を左に見送る。その後の2段25m滝は、下段を登った後に上段を左壁の灌木沿いから巻く。最後に滝を落ち口をトラバースするので、落ちると危険。そして、ここにも砂利が…、松村は半べそをかきながら登る。



大滝の上はナメ滝になっている。振り返ると眺めが良い。

ゴルジュ出口の 8m 滝は、右壁に取りつくがつるつるしていて足が滑るので、ジムボルダー松村は突破を諦めてクライムダウンした。右岸の藪の中を巻いた。次回は気合いを入れて登りたい。



その後はナメ滝が続く。そこそこ傾斜がある上に苔がヌメヌメしているが、灌木沿いにルートを取れるので問題ない。松村・平川は沢慣れていないので苦労した。平川の肉体は筋肉の塊らしいが、下から登る姿を見ていると、おばちゃんの尻にしか見えない…！。灌木が豊富過ぎるので、つい頼りがちになるが、すっぽ抜けると怪我するので注意すること。

大ナメ 30m を抜けると、お風呂状の釜が連続する。緊張から解放されて、しばし憩う。



ナメの後に控える 8m 滝はつるつるしており、落合がロープを出して登る。最後の 8m 滝も落ち口の一歩が緊張する。

沢が旧道を横断するところで遡行を終了し、下山する。旧道は崖沿いに付けられており、湯檜曽川の対岸や武能岳の眺望が良くて面白かった。